



立法論綱

四

兩
第九十号

共四

1

和装本

71
55
4





立法論綱卷四

第十三篇

立法學ノ趣意ニ關シテ謬妄ノ論理ヲ駁

本書總論ノ目的トスル所ハ實利主義ノ意義ヲ
明瞭ニシ此主義ニ符合スル論理ノ方法ニ明解
ヲ與フルニ在リ能ク數言ニ包括ス可キ立法ノ
論理ハ是ニ由テ生ス夫レ法律ニ關シテ適當ノ
理ヲ與フルトハ如何ナル事ゾヤ即チ其法律ヨ
リ生ゼントスル者ハ幸福乎將タ凶害乎ヲ推言

立法論綱
卷四



二六言
スルニアルノミ其何ノ幸福有ラバ議論之ニ與
レ其何ノ凶害アラバ議論之ニ抗ス而レテ其幸
福ト云ヒ凶害ト云フハ快樂ト痛苦トニ外ナラ
ザルヲ常ニ心胸ニ銘レテ之ヲ爲スナリ
謬妄ノ理ヲ與フルトハ如何ナル事ゾヤ曰ク其
効果ノ幸福凶害ニ依ラズ他事ヲ掲ゲ来テ法律
ヲ褒貶スル者は是レナリ
夫レ効果ニ因テ善惡ヲ定ムルヤ世間何物カ能
ク其簡ニ比センヤ又未ダ之レヨリ新タナル者
アラザルナリ然レモ實利ノ主義ハ新奇ニアラ

ガレテ人類ト共ニ生出スル舊物トヤザルヲ得
ズ夫レ道義ノ真理ト法律ノ利益トハ悉ク此主
義ヨリ發出セザル者ナレ而レテ人唯自然チ感
動ニ因テ知ラズ識ラズ往々實利ヲ實踐レナガ
ラ唯議論ニ於テ之ニ反對レタリ立法學ノ書ニ
於テ往々此主義ノ微光ヲ發揮スル者アリト雖
モ忽チ又四塞ノ烟霧ニ掩蔽セラル獨リベツカ
リア意太利有名ハ此範圍ノ外ニ卓出シテ實利
ニ取ルアル如シト雖モ其書尚ホ未ダ或ル論理
ヲ謬妄ノ源ニ取ルヲ免レザル者アリ

立法論綱

卷四

二

エリストトトリズガソフキスムス詭ト題名セ
 ル書ヲ著シテ種々ノ謬妄論理ヲ蒐集シ完全ノ
 表記ヲ製セント企テタルハ二千餘年前ニ在リ
 爾後多年ヲ經過シタル間諸説ノ爲メニ改良セ
 ラレタル其全表ヲ今此ニ引用スルモ亦可ナリ
 然リト雖氏之ヲ爲スハ此書本旨ノ壇外ニ馳騁
 スルヲ以テ唯立法ノ趣意ニ關スル者ノ謬妄ヲ
 摘發スルヲ以テ足レリトスベシ斯ノ如キ照對
 ノ手段按其非ナル者ヲ辨駁シテ反對ノ位置ニ
 ヲ施シテ實利ノ主義昭明ナルヲ得シトスルナ

第一 古來ノ浴襲ハ理ニアラソ
 夫レ法ノ古來ヨリ浴襲セル者ハ人ヲシテ之ヲ
 是視スルノ臆想ヲ發セシム然リト雖氏其古來
 ノ浴襲即チ理ニハアラズ但レ其法若レ公同ノ
 幸福ヲ資ル者タランニハ其浴襲ノ久キニ隨テ
 一層ノ良効ヲ筭定レ易ク其直接ノ施行ニ於テ
 實利ヲ證明レ易カラントス
 第二 宗教ノ權ハ理ニアラソ
 宗教ノ權ヲ以テ理トスルノ論ハ今既ニ衰ヘタ

リ然リト雖臣輓近ニ至ル迄此論理ノ行ハル、
 尚ホ頗ル廣カリキエルジエル、ン、レドニ一英
 有名家ノ著書ハ多ク舊約書ノ文ヲ引用シ民治
 政體ノ基礎ヲ其中ニ發見シタルヤ恰モボスレ
 エ工一佛國有名ガ舊約書中ニ專制ノ主義ヲ發
 見セシガ如シレドニ一ハ夫ノ君權ヲ神授トナ
 レ君命唯遵フノ黨ニ向テ敵ノ兵仗ヲ用テ抗戰
 セント企テタリ按敵ノ兵仗ヲ引テ君權ノ神授
 タルヲ説クレドニ一之ヲ用テ之ヲ反撃セントス
 吾人若シ法律ハ天神ニ出ヅト假想セバ其無上

ノ知識ト恩惠トニ出ヅト假想スルナリ然ラバ
 則チ此法律ハ其目的唯最上ノ實利ニ存ス可ク
 シテ其實利ノ明解セラレタル者ハ常ニ法律ヲ
 是認スルニ十分ナルベシ
 第三 新起ノ非難ハ理ニアラズ
 新起ヲ拒ムハ進歩ヲ拒ムナリ若シ常ニ新起拒
 絶ノ主義ニ遵ハバ吾人ノ景狀ハ果シテ如何ナ
 ルベキヤ夫レ現存ノ事物皆其始ヲ有セザルナ
 レ凡テ設立セラレタル事物ハ原ト皆新起ナラ
 ズンバアラズ若シ其舊行ノ故ヲ以テ法律ヲ今

日ニ賞賛スルノ徒ヲレテ其法律ヲ設立スルノ
昔日ニ在ラレメバ其新法タルノ故ヲ以テ之ヲ
抗拒セシナラン

第四 私意建立ノ釋義ハ理ニアラズ

全ク私意建立ノ釋義ヲ以テ自家論理ノ基本ト
爲レ又之ヲ以テ大文字ヲ著スハ法律家政論家
常用ノ慣手段ナリ乃チ言辭ニ附スルニ其普通
慣用ニ別ナルノ新意ヲ以テ之ヲ驅使スルニ
前人未ダ行ハザル用法ヲ以テ深奥神秘ノ外
觀ヲ現ジ讀者ヲ眩レテ以テ其狡手段ヲ遂ガ

モンテスキュー 佛國法學家 トラ尚ホ其著書ノ卷

首ニ於テ既ニ此誤竇ニ陥リタリ其法字ノ釋義
ヲ爲ラント欲シ比喻ヲ重複シテ懸隔無縁ノ事
物ヲ牽合セリ曰ク天神曰ク萬象曰ク神物曰ク
禽獸曰ク人類ト竟ニ乃チ曰法ハ關係ナリ恒久
ノ關係ナリト其斯ノ若シ其解釋ノ不明瞭ナル
ハ解釋セントスル物按解釋セントスル物トヨ
リモ甚ダレ夫レ法ト云フ辭ハ本義ニ於テ略其
大意ヲ各人ニ曉ラレム關係ト云フ辭ニ至テハ
毫モ之ヲ曉ラレムル能ハズ法ト云フ辭ハ比喻

ノ意義ニ於テ唯不明不定ノ意ヲ現スルニ過
 モンテスキューハ宜シク昏霧ヲ消散スベキニ
 却テ之ヲ重層シタリ
 唯特別ノ方法ニ使用スベクシテ之ヲ他ニ施ス
 能ハザルハ妄解ノ本質ナリモンテスキューハ
 纒カニ関卷ヨリ數葉ヲ隔テ、(三篇)忽チ他ノ釋
 義ヲ說出シタリ曰ク法ハ地上ノ人類ヲ管スル
 フ。度トシテ通解スレバ人理ナリト此ノ語ヤ前
 解ニ比スレバ稍々切實ナリト雖モ明確ノ思想
 ハ一モ之レヨリ生ズル無レ夫レ彼此相抵觸シ

苛烈ニ陥リ若クハ謬妄ニ流レ又變更曾テ絶ユ
 ル無キ許多ノ法律ハ豈是レ常ニ人理ナリト言
 フノ實蹟ナラシ乎見ル可シ理ハ法ヲ距ル甚ダ
 遠クシテ却テ往々相反スル者アルヲ
 モンテスキューハ其書ノ第一篇ニ於テ多ク糊
 塗ノ說ヲ揭ケタリ蓋シ心學ノ空理ヲ檢索セン
 が爲メニ其腦漿壓窄ヲ受タルナリバツカリア
 モ尚ホ其糊塗ノ關係說ニ籠絡セラル、ヲ免レ
 ズ其言ニ曰ク罪ノ有無ヲ知シガ爲ニ其人ニ向
 テ之ヲ問フハ是レ人ヲ強テ躬ラ其身ヲ罪セシ

メントスルナリト且此審理法ヲ非トセリ其故
 ヲ問ヘバ則チ曰ク是レ一切ノ關係ヲ涵レバナ
 リ原注ベツカリト然リト雖モ其語タル果シテ
 何ノ意ゾヤ夫レ享樂ト云ヒ受苦ト云ヒ樂ヲ生
 ズト云ヒ苦ヲ生ズト云ハバ其語意明白ナリト
 雖モ關係ニ從フト云ヒ關係ヲ涵ルト云フハ毫
 モ其何ノ意タルヲ知ル能ハサルナリ此ノ如キ
 空漠ノ言辭ハ人ヲシテ何等ノ思想ヲ生ゼレノ
 不何等ノ感情ヲ發セシメザルナリ關係ト云フ
 辭ヲ聞クモ嘗テ異想ヲ感ゼズ快樂痛苦ト云フ

辭ヲ聞ケバ其何ノ意タルヲ感ズルナリ如キ
 ルーソトハモンテスキウトノ釋義ニ服セズシ
 テ己レノ大發明ト自負スルノ字解ヲ說出シタ
 リ曰ク法ハ人民一般ノ志向ヲ明言セル者ナリ
 ト是レ人民集合シテ一體ヲ爲シ其志向ヲ説述
 セル所ニアラザレバ法無キナリ純然タル民政
 國ニアラザレバ法無キナリルト此無上ノ
 一號令ヲ掲ゲテ現時一切ノ法律ヲ壓倒シ又後
 日設立セラレベキ一切ノ法律サンマリノ意太
 東ノ小民主國ノ立法ヲ例外トシラシテ決シテ
 島國

存立ス可ラザレメタリ

第五 比語ハ理ニアラス

此ニ比語ト謂フハ正シク比喩ノ名稱ヲ下スベ
キ者ト其初メ解釋若クハ文飾ニ用タル者後ニ
至テ議論ノ基本トナリタル寓言トヲ兼稱スル
者トス

夫ノ裁判廳ノ判決録ニ新タニ英語ヲ用ヰルヲ
非トスル迄ニ一切改革ノ大敵タリシブラツク
ストーン英國有名法學士ハ其書ヲ誦スル人ヲシテ改
革ヲ惡ムノ臆想ヲ感起セシメントセリ彼レ法

律ヲ形容シテ曰ク城ノ如ク若ク如ク變スレバ

弱ナラザルヲ得原注英法注釋第三卷第十七篇蓋レ此句

ヲ以テ本議トシテ掲出セルニハ非ル可シ然リ

ト雖氏試ミニ問フ何ノ故ニ此比語ヲ用タル乎

即チ人ノ想像ヲ收メントセンガ爲メナリ讀者

ヲシテ一切改革ノ意ニ反スルノ臆想ヲ起サシ

メンガ爲メナリ法律ヲ改革スルヲ畏ル、ノ心

ヲカメテ激生セシメンガ爲メナリ其レ然リ讀

者ノ心中ニ妄想ヲ幻出シテ此妄想ハ恰モ謬妄

ノ論理ト同一ノ効果ヲ生ズ且ツブラツクスト

一ニシテ何ゾ己レニ抗論スル者ノ此比語ヲ
 反用スルヲ省ミザル夫レ法律ノ城郭ト同視セ
 ラレタルヲ見バ失敗ヲ取リタル訟者ハ法律ヲ
 以テ盜賊盤居スルノ城郭ト看做スニ至ンハ勢
 ノ自然ニアラスヤ
 英人曰ク一家屋ハ其主人ノ城郭ナリト此詩様
 ノ形容語ハ決シテ理ニアラザルナリ夫レ人家
 ヲレテ夜間ニハ其主人ノ城郭タラシメバ何ゾ
 其晝間ニ然ラザルヤ若シ其主人ノ爲メニ侵ス
 可ラザルノ蔭地タラシメバ主人ノ喜ンデ迎フ

ル各人ノ爲メニモ亦然ラザルハ何ゾヤ英國ノ
 裁判廳ハ時ニ或ハ此兒戲ノ自由説ニ其掣肘ヲ
 被ムレリ罪人ハ恰モ夫ノ田獵ノ興ヲ増サン爲
 メニ其巢窟ヲ有スルヲ許サル、ノ野狐ト同視
 セラル、ガ如シ
 加特力教國ニ於テハ寺院ヲ天神ノ居トス此比
 語ハ罪人ノ蔭地ヲ爲ルノ用トナレリ謂ヘラク
 天神ノ居ニ匿レタル者ヲ力獲スルハ天神ニ不
 敬ヲ呈スルナリト
 貿易ノ均衡ト云フ辭ヨリ比語ヲ基トセル百端

事ニ關シテ荒誕ノ一例ヲ供シタリコクセイジ
 ハ人ノ天賦ノ權ヲ婉說曲論シ遂ニ斷ジテ曰立
 法者ハ人民ニ遺言ヲ爲スノ權利ヲ許ス可キナ
 リト其故如何曰ク相續人ト死亡人ト一身同體
 ナルガ故ニ相續人ハ理トシテ死亡人ノ財產ヲ
 享有スベシト（原注）一葉ヨリ一十五葉ニ至
 ルコクセイジハ其論議中ニ稍實利主義ヲ含有
 スル者アリト雖モ畢竟其緒論ニ過ギズシテ本
 議ノ理即正面ノ理ハ生者死者ヲ以テ同一トナ
 シタリ

英國ノ律學者ハ或ル場合ニ於テ財產ノ沒收ヲ
 是認センガ爲メニ夫ノダレトフレデリック
 ノ法官（按）即チ指スセノ如キ論理語調ヲ用キタ
 リ此等ノ律學者ハ相續權ヲ停止スルノ汚血ヲ
 空想シタリ一人アリ大逆ノ罪科ノ爲メニ死刑
 ニ處セラル、時ハ其子ノ無罪ナル者唯其父ノ
 財物ヲ受ルヲ得ザルノミナラズ尚ホ且ツ其祖
 父ノ財物ヲ相續スル能ハズ何ントナレバ其財
 物ノ由テ流傳シ來ル可キ溝路汚レタレバナリ
 ト國事犯ノ原始罪業（按）謂フ西人類ノ故事ナリ其說ニ

一、至神命逆其罪縁ヲ引ケル其子孫タル吾人
 犯セルヲ稱シテ原始ノ罪業ト云フ今汚血ノ説
 ハ父ノ罪犯ニ由テ子孫ノ財權ヲ没セシム是レ
 國事犯罪上ノ原ニ類セル此荒誕ハ法律ノ此諸
 始罪業ニ類セリ然リト雖氏試ニ問フ事何
 点ノ論基ト爲レリ然リト雖氏試ニ問フ事何
 ゴ此ニ止マル乎若シ父ノ血ヲシテ實ニ汚レシ
 メバ何ノ故ニ其汚レニ生ジタルノ凶兒ヲ誅滅
 セザル乎何ノ故ニ父ト共ニ其子ヲ刑ニ處セザ
 ル乎
 プラツクスストーンハ其著書第一卷ノ七篇ニ於
 テ王權ヲ論ジテ全ク荒誕ノ兒戲ニ陷レリ曰ク

國王ハ不在ノ所無レ曰ク國王ハ過失ヲ爲ス能
 ハズ曰ク國王ハ不死ナリト
 此等ノ失笑ス可キ奇語ハ奴隷習ノ結果ニシテ
 王者特權ノ正意ヲ與ヘザルノミナラズ唯是レ
 人ノ耳目ヲ眩シ心思ヲ惑ハシ眞事ヲ装フニ小
 説怪語ノ形狀ヲ以テスルノミ然リ而シテ此等
 ノ荒誕ハ唯想像ノ幻光ノミニアラズブラツク
 ストーンハ之ヲ以テ許多論理ノ基本ト爲セリ
 之ヲ用テ國王ノ諸特權此諸特權ハ正當ノ議ヲ
 以テ是認スルヲ得ル者ナルニテ説明シ其謬妄

ノ語ヲ以テ王權ヲ維持セント欲シ却テ最大事
故ノ損敗スルアルヲ省ミ彼又曰ク判官ハ國
王ノ肖像ヲ反照スルノ明鏡ナリト噫是レ何等
ノ兒戲ノ言辭ヅ是豈其最モ尊重ナラシメント
欲スルノ物ヲシテ嘲笑スベキノ者トスルニア
ラスヤ
然リト雖モ荒誕ノ更ニ是レヨリ雄大ナル者ア
リテ大ニ其カヲ政治ニ現ジ又有名ノ著作ヲ出
サシメタルハ條約ト云フ言辭是レナリ
近時其書ヲ知ル者モ寡ク且其臆說ヲ載ルト臆

說ノ轉ジテ壓制ノ干城トナレルトニヨリテ人
ノ惡ム所トナレルホツベス英國ノノ「レ」ヴキア
ザシハ政治社會ヲシテ悉ク僞冒ナル君民間ノ
條約ニ基ク者ト爲サントス其說謂ラク天賦ノ
自由ハ唯有害ノ事ヲ爲スノミ君民ノ條約ニ因
テ人民此自由ヲ讓與シ一切ノ權利ヲ舉テ之ヲ
君主ノ掌中ニ歸セリ一切ノ異意ハ君意ノ中ニ
併セラレ消滅セラルト云フハ更ニ適切ナリ君
主ノ意ハ即チ是レ萬民ノ意ト見做スヲ得ダヴ
キドガウリア按ダヴキドハ「イ」スレノ王ウ
リアハ其部下ノ驍將ナリウリア

大將^シテヨリアブニ屬^シテ外征^スダダ^シ其妻^ニ見^ルユ^ラ死^ニ陷^レタルハウリアノ承諾^ヲ得^テ之^ヲ爲^シタルナリ何ントナレバ彼レ嘗^テダダ^シツドノ一切ノ命ヲ奉^ズルヲ承諾^シタルバナリト此論^法ニ由^レバ君主ハ天神ニ對^シテ罪ヲ行^フヲ得^ベシト雖^モ人類ニ對^シテハ罪ノ得^ベキモノ無^シ何ントナレバ君主ノ一切ノ行爲ハ悉ク人民一般ノ承諾ニ出^タレバナリ人民ハ決^シテ其君主ニ抗^スルノ思想ヲ懷^ク能^ハズ何ントナレバ此ノ如キ思想ハ自^ラ其身ニ抗^スルノ撞^著

又免^レザレバナリト^ルロツクノ名ハホツベスガ嫌惡セラレタルニ同ジキ度ヲ以^テ自由家ノ爲^メニ尊重セラルル此人モ亦條約ヲ以^テ政府ノ基本トナシタリ而^シテ其君民ノ間ニ條約アリトスルハホツベスト同說ナリト雖^モ君主ハ法律ニ遵^ヒ又共同ノ幸福ノ爲^メニ管治スルヲ約^シ人民ハ君主其位ヲ得^{タル}所以ノ約ヲ踐履^シテ違^ハザル間ハ恭順ヲ守ルヲ約^シタリト云^ヘリル^ルソ^トハ君民ノ間ニ此ノ相互ノ條約アリト

云フノ思想ヲ賤ミ之ヲ駁シテ自ラ社會ノ條約アリト想像シタリ此條約ニ因テ一國ノ人民全分ハ其人民全分ニ對スルノ義務アリ此約束ハ政府ノ唯一正當ノ基礎ナリ社會ハ唯此合同ノ自由盟約ニ因テ存スト云ヘリ此等ノ三論法ハ全ク相反スト雖其荒誕ヲ以テ政論ヲ創為スルニ至テハ則チ一ナリ何ントナレバ此等ノ三約ハ皆均ク荒誕ニ屬スレバナリ其條約ハ唯此等論者ノ想像ニ存ス吾人ハ唯史上ニ此等ノ蹤蹟ヲ尋ネ得ザルノミナラズ却

テ各地ニ於テ其反對ノ證據ヲ發見セリホツベスノ條約說ハ其謬妄ニ屬スルヤ明瞭ナリ夫レ各國ノ壓制ハ悉ク暴虐ト謬妄宗教ノ思想トノ結果ニアラザルナレバ假設一國民公然タル決定書ヲ以テ大權ヲ舉ゲ之ヲ其酋長ニ委スルアルノ例ヲ尋ネ得タリトモ其人民ハ此事ノ為メニ君主一切ノ妄意其奇異ナルト慘刻ナルトニ關セズヲ遵奉スルヲ約シタリト云フ可ラズ而シテデンマーク國人ノ千六百六十年ノ決定書ハ却テ大權ヲ制限スルノ條款ヲ有ズルノ

一奇例トス可シ
ルソーノ社會條約說ハホッペスノ說ノ如ク
嚴酷ノ駁論ヲ來サヅリキ何ントナンバ人其最
モ愛スル所ノ者即チ自由平等ヲ立テントスル
ノ論理ニ向テハ敢テ誹難ヲ逞クセザルガ故ナ
リ然リト雖ヒ試ミニ問フ其唱フル全國合同ノ
盟約ハ何レノ地ニ於テ之ヲ爲シ、トアル乎其
條款ハ何如ナル者乎何如ナル言語ヲ以テ之ヲ
記シタル乎何ノ故ニ常ニ人ノ知ル所トナラザ
リシ乎夫ノ森林ヲ出デ蠻野ノ生活ヲ脱シタル

ニ際シ如何ノ人種アリテ能ク此原始ノ盟約ヲ
建立スル如キ道學政學ノ大思想ヲ具ヘタル乎
ロツクノ條約說ハ之ヲ前二者ニ比スレバ稍々
外觀好處アルガ如シ如何ントナレバ實際ニ於
テ或ル君國ハ其君主ノ踐阼ニ當リ一定ノ約束
ヲ爲シ其臨御ス可キ人民ニ對シテ一定ノ箇條
ヲ承諾スル者アレバナリ
然リト雖ヒ此條約說モ亦一荒誕ノミ條約ノ本
質ハ其關係ヲ相爲ス兩主自由ノ承諾ニ成ル者
ナリ而ルニロツクノ所謂條約ノ條款ハ既ニ一

定セル者豫知セラレタル者ト看做シタリ若シ
又君主即位ノ時ニ方リテ其條款ヲ諾スルト否
トヲ自由ナラシメンカ人民モ亦之レト共ニ同
一ノ自由ヲ有スル乎僅ニ數人ノ汎然タル贊成
ヲ以テ人々一般ノ甘諾ト認ムルヲ得ル乎此條
約ハ嘗テ之ヲ聞知セズ嘗テ之ヲ準許スルガ爲
メニ召集セラレズ又之ヲ諾セズンバ財產ト生
命トヲ危クスルガ故ニ電勉強從レタルノ稠衆
ヲ羈束スルヲ得ル乎
加旃現ニ許多ノ君國中此偽冒條約ノ外觀ガニ

モ尚ホ存スルコトナク君民間ノ約束ハ其幻影ダ
ニモ尚ホ見ル可ラス
夫レ人類ノ幸福ヲ以テ荒誕ノ架上ニ構スルハ
無用ナリ社會ノ高塔ヲ其基址ヨリテ壞崩ス
ル泥沙ノ上ニ建ツルハ無用ナリ此ノ若キ區々
ノ論ハ之ヲ兒子ニ付セヨ大人ハ當ニ真說ト正
理トノ語ヲ話スベシ
真正ナル政治ノ經絡ハ人民其政府ヲ保持スル
ニ因テ有スル所ノ大利益是ナリ若シ政府ヲレ
テ無ラシメバ決シテ安固ナク家内ノ享福ナク

財産ナク勤勞ナレ吾人ハ諸政府ノ根原ト體制トノ如何ナルニ關セズ其基礎ト理由トヲ必ス此ニ索ム可シ吾人能ク政府ノ權利義務ヲ眞確ニ論ゼントセバ夫ノ歸結ナキ論端ヲ開クベキ僞冒ノ條約說ヲ假用スルヲ須キズ唯政府ト其目的トヲ比較スルニ因テ得ベキナリ
第七 空想ハ理ニアラス
眞理之ヲ決セリ恒久ノ眞理之ヲ命ゼリ等ノ如キ世間普通套語ノ之ニ過ルハアラズ然リト雖
凡試ミニ問フ其眞理トハ如何ナル者乎若シ其

レヲレテ幸福凶害ノ明瞭ナル見解ニ因ラザラレメバ唯是レ空想ノミ之ヲ語ル者ノ心想ヲ示言スル專斷ノミ請フ有名ノ法學者ガ何ヲ基礎トシテ父ノ權ヲ建立セント企テレカヲ省ヨ尋常敏捷ノ人ハ此問題ニ關シテ甚シキ困難ヲ見ガレ可キニ世間博學ノ士ハ却テ每事神秘解ク可ラザルヲ見ル
コクセイジ曰ク父其兒子ニ對スルノ權ハ眞理ニ基ケリ何ントナレバ第一ニハ父ハ家ノ主人ニシテ兒子其家内ニ生ルレバナリ第二ニハ父

ハ一家族ノ長ニシテ兒子其族中ニ生ルレバナ
リ第三ニハ兒子ハ父ノ種子ニ出デ、其身體ノ
一部タレバナリト是ノ三條ノ理ハコクセイジ
ガ強歲ノ人モ其父此時ニハ父其自然ノ序ニ於
テ老耄スベシノ承諾ヲ得ズレテ妻ヲ娶ル可ラ
ズト斷言スル所以ノ一ニ居レリ而レテ此三條
共ニ有スル所ハ何者ゾヤ唯是レ毫モ兩者按父
云ノ利害ニ關セザルノ一事ノミ此論者ハ毫モ
父子ノ幸福ヲ計畫セザルナリ
其父ノ權ト云フノ句ハ妥當ノ者ニアラズ按父

事ヲ為ス權ト云フハ可ナリ父ノ權ト云フハ何
事ニ關スルヲ知ル能ハズ故ニ妥當ノ者ニアラ
ズト其問題ハ其無限ノ權若クハ分ツ可ラザル
ノ權ヲ云フニアラズ夫レ父ニ附與ス可キト附
與ス可ラザル許多ノ權アリテ各々其レニ屬ス
ルノ理アルナリ
コクセイジガ主張スル所ノ第一理ハ唯不定ノ
事情ニ關レテノミ真ナル者ヲ以テ其基礎トセ
リ一旅人ヲシテ兒子ヲ容館、船上、若クハ友人ノ
家ニ生マシメバ斯ノ若キ父ハ其父權ノ第一基
本ヲ缺クナルベシ且ツ此論理ニ隨ハバ家僕ノ

兒子及ヒ兵士ノ兒子ハ其父ノ命ニ從フ可ラズ
却テ其生レタル家主ノ命ヲ奉ズヘキナリ
其第二ノ理ヲシテ或ル一意義ヲ有セシムルモ
唯是レ其第一ノ理ヲ重説シタルニ過ズ試ミニ
問フ父兄ト同居シ（按此場合ニ於テハ祖父若クハ伯父其家族ノ長タルベシク）
若クハ主家ニ住スル者ノ子ハ其父ノ長タル家
族中ニ生レタル乎
其第三ノ理ハ虚誕ニシテ且陋劣ナリ「兒子ハ其
父ノ種子ニ出デ、其身體ノ一部ナリト云フ若
シ之ヲ以テ其權ノ基本トセバ則チ母ノ權ヲ以

テ遠ク父ノ權ノ上ニ置カザルヲ得ズ
吾人ハ是ニ謬妄ノ主義ト眞正ノ主義トノ間ニ
正當ノ差異ヲ立ルヲ得ルナリ實利ノ主義ハ唯
兩者（按父ノ利益ニ應ズルヲ以テ事情ニ隨テ曲）
折シ各種ノ場合ニ適用スベシ謬妄ノ主義ハ毫
モ各人ノ利害ニ關涉セザル事ヲ以テ其基本ト
スルガ故ニ其事假令矛盾セザルモ亦佞屈ヲ免
レズ夫ノ出生ヲ以テ基本トセル謬妄父權ノ本
質即チ是レナリ曰ク子ハ天然ニ父ニ屬セリ何
ントナレバ子ノ體ヲ構成スル所ノ物質ハ嘗テ

父ノ血管中ニ環流シタレバナリ父其子ヲレテ如何ニ不幸ナラシムトモ決シテ其父ノ權ヲ消滅スル能ハス何ントナレバ吾人ハ決シテ其父ノ子ヲレテ其父ノ子タルヲ免レシムル能ハザレバナリト果シテ然ラバ甲人ノ體ヲ養生セシ穀禾ハ嘗テ乙人ノ田野ニ生ゼシ時何ノ故ニ甲人ハ乙人ノ奴隸タラザルヤ

第八 愛憎ハ理ニアラス

憎惡ニ因テ理ヲ論ズルハ刑法ニ關スル問題ニ於テ最モ普通ノ者ナリ乃チ吾人ハ罪科ト認

ル行為ニ對シテ憎惡ヲ有シ有罪ト認ムル人ニ對シテ憎惡ヲ有シ司法官ニ對シテ憎惡ヲ有シ某々ノ刑罰ニ對シテ憎惡ヲ有ス此謬妄ノ主義ハ恰モ法律ノ廣域ヲ統治スル虐主ノ如シ公然カヲ奮テ之ヲ攻撃スルヲ試ミタルハベツカリアラテ以テ嚆矢トナス其論鋒極メテ精銳ナリ而シテ其僭主(按憎惡主義ヲ指シテ)覆滅シタルノ力與リテ多シト雖臣之レニ代フベキ更ニ公平ナル新則ヲ立ルニ至テハ蓋シ幾許モアルナシ夫レ罪科ヲ視テ之ヲ刑罰ニ該ツ可シト云ハシ

ムルハ憎惡ノ主義ナリ又或ル行為ヲ賞譽ニ値ルト云シムルハ憎惡ニ對スル愛憐ノ主義ナリ抑值ルト云フノ辭ハ唯人ヲ誘テ情意ト謬見トニ從ハシムル者ナリ吾人が唯考察スベキ所ハ善惡ノ効果ニアリ然リト雖此ニ愛憎ハ理ニアラズト云フハ唯立法者ノ愛憎ヲ指ス者ナリ何ントナレバ人民ノ愛憎ハ理（按）法律ヲ定ムル所以ノ理ヲ指ス人憎ニヨルト爲スヲ得ベク而カモ甚ク勢力アル者ナレバナリ一宗教一法律一習慣ハ其如何ニ

奇異ナルト惡ム可キト云拘ラズ人民ノ之ニ甘心スル間ハ決シテ患ヲ足ラズ人民臆想カハ之ヲ許サバ可ラザル所ノ寛容ノ度ナリ夫レ享樂ト希望トヲ奪フハ其樂其望如何ニ空想ナルニ拘ラズ其害タル恰モ眞箇ノ希望眞箇ノ享樂ヲ奪フニ同ジ此ノ場合ニ於テハ愛憐ノ同感ニヨリ一人ノ痛苦ハ萬人ノ痛苦トナル此ニ於テカ萬害生ズ一般ノ臆想ヲ破ル法律ニ對スルノ憎惡アリ之ヲ登載スル所ノ全體ノ法典ニ對スルノ憎惡アリ此法律ヲ施行スル政府

立法論綱 卷四
ニ對スルノ憎惡アリ其施行ヲ助ケザルノ氣象
アリ密カニ之レニ抗スルノ氣象アリ公然腕力
ヲ以テ之ニ抗スルノ氣象アリ人民ノ志向ニ反
對シテ行進スル政府ヲ顛覆セントスルノ氣象
アリ其集合ノ形狀ハ謀叛若クハ内亂ノ慘狀ヲ
現出スルノ犯罪ヨリ生ズル諸凶害トナリ又此
等ノ犯罪ヲ禁遏スルノ手段トス可キ刑罰ヨリ
生ズル諸凶害トナル此ノ如キ者ハ人民ノ空想
臆想ヲ力制スルヨリシテ常ニ起ラントスル危
險ナル効果ノ連續ナリ立法者ハ止ムルニ由ナ

キ潮勢ニ從ハザル可ラズ然リト雖モ請フ尤ノ
事ニ著眼セヨ此場合ニ於テ空想直チニ立法者
ノ去就ヲ定メシムル所以ノ理ニアラズ此空想
ニ反對スルヨリ生ゼントスル凶害コソ立法者
準據ス可キ理ナルコトヲ
其レ然リ立法者ハ其管治スル人民ノ空想ニ隸
從ス可キ乎曰否妄進ノ抵抗ト隸習ノ迎合トノ
中間崇尚スベキ安平ナル道路アリ即チ能ク人
民ノ空想ヲ討服ス可キ武器ヲ把テ抗戦スルニ
アリ武器トハ何ゾ例ト教ト是ナリ立法者ハ人

民ヲ開明ニセザル可ラズ自ラ公認ノ理ニ訟ヘ
ザル可ラズ謬妄ノ發露スル時間ヲ與ヘザル可
ラズ明瞭ニセル真理ハ必ズ謬妄ノ理ニ勝ザル
ヲ無シ然リト雖モ立法者ハ此等ノ教化ヲ自ラ
公行スルニ過グ可ラズ何ントナレバ衆民ノ無
智ト相忤フノ畏アレバナリ其目的ヲ能ク達ス
ルハ間接ノ手段ヲ用キルノ愈レルニ如カズ
然リト雖モ人民ノ臆想ニ過度ノ尊敬ヲ致スハ
天下普通ノ謬妄ニシテ反對ノ方向ニ過度ナル
者（按）人民ノ意ニ逆テ改ハ甚ダ希レナル事ヲ察

セザル可ラズ法律ノ最モ好案ハ曰ク臆想ハ改
レニ逆ヘ曰ク人民之レモ因テ激セテ其著
通抗論ノ爲ニ常ニ壓倒セラル、ナリ然モ其
雖モ試ニ問フ何ヲ以テ其果ニテ然ルヲ知ル
ヤ何如シテ之ヲ輿論ニ質シタル乎輿論ノ機關
ハ何物ナル乎全國ノ人民ハ其趣意ニ就テ唯一
ノ同説ヲ有スル乎社會ノ人蓋シ十中ノ九ハ其
論ズル趣意ノ何タルヲ聞知セザル者アリ而シ
テ此等ノ人皆同一ノ感情ヲ有スル乎況ンヤ人
民若シ謬見ヲ有セバ常ニ此壇域ヲ脱スル能ハ

ザル可キ者乎光線ノ流動ハ謬見ヲ生ゼントス
ル昏霧ヲ破ラザル可キ乎全國認ムル所ノ智士
人民ノ立法者が未ダ確乎タル智識ヲ有セザル
ニ方テ人民ニ之ヲ有スルヲ望ム可キ乎又此
如キ無識ノ範圍ヲ脱出シ此ノ如キ障碍ヲ超越
シテ捷利ヲ獲タル他國人民ノ例アラザリシ乎
通ジテ論ズルニ人民ノ臆想ハ誘原トシ用ラル
、ヨリハ口實トシ用ラル、多クシテ政事學士
ノ不能ヲ蔭蔽スル利器トナリ人民ノ無識ハ怯
懦怠惰ノ好口實トナル而シテ真個ノ誘原ハ却

テ立法者自ラ免ル、能ハザル所ノ臆想ニ在リ
人民ノ名ハ其在在上者が偽リ借テ己レヲ是トス
ルノ用ニ供スルノミ
第九 問題ニ評意ヲ含ムハ
問題ニ評意ヲ含ムハ（按）論僧官ホエトリ
解シテ曰ク前中結論ト同意ヲ現スル者或ハ
前言現ニ結ノ論ニ因テ證明セラレトス能ハザル
ニ或ル一定ノ證明ヲ他ノ語調ヲ明云フトス能
クヲ得ル如キ世々見テ之ヲ云フトス能ハザル
論ヲ前下ス如キハ奢ハ云エリトス能ハザル
マバ例ヲ下見ル奢ハ云エリトス能ハザル
タル詭辨ノ一二居レリ然リト雖是レ一個ノ

プロチユース（按神名其形體ヲ自在ニ變ジ巧ニ
ニ本身ヲ隱匿スルノ術ヲ有ス
ニシテ千様ノ變狀ヲ現出ス
問題ニ評意ヲ含ムトハ問題ヲ既定ノ事ノ如ク
見做ストハ未定ノ爭論ヲ執テ既ニ證明セラレ
タル者ノ如ク用キルヲ云フ
此謬妄ノ用法ハ其形狀ヲ變ジテ感發ノ語調ヲ
爲レ以テ道德學立法學ノ域中ニ入ル感發ノ語
調トハ其主トスル本意ノ外更ニ褒貶ノ意義ヲ
附加スルノ語調ヲ云フ平易ノ語調トハ單ニ其
當然ノ事物ヲ說出スノミニシテ繼テ至ラント

スル幸福凶害ヲ前定セズ又褒貶ノ餘意ヲ攙入
セザル者ヲ云フ
今一言スベキ者アリ感發ノ語調ハ明言セズレ
テ暗示スルノ意ヲ含蓄セリ此言辭ヲ用キルノ
人自ラ之ヲ覺知セズト雖此之ヲ用キル時感發
ノ意毎々跟随スル者ナリ此含蓄ノ意ハ褒貶ヲ
有セリ然リト雖此其暗示スル所ハ常ニ漠然ト
シテ歸決スル者ナシ
試ニニ常ニ貶斥ノ餘意ヲ現スル言辭ニ實利主
義ノ意義ヲ附セント欲セン乎則チ奇怪ノ說ヲ

為スガ如ク自家撞著ヲ為スガ如キヲ見ントス
例ヘバ某事ノ如キ奢侈ハ良事ナリヤト問ニ
奢侈ト云フ辭ニ貶斥ノ感情ヲ附スルノ慣習ア
ル人ヲ驚カスベシ
然ラバ則チ如何シテカ奇險ナル連帶ノ感想ヲ
感起セシメズシテ能ク此点ヲ考察スルヲ得ル
ヤ曰ク平易ノ辭ニ依ルノ手段ヲ用ヰザル可ラ
ズ例ヘバ人アリ其入額ヲ斯ノ若ク費用スルハ
良事ナルヤト言フ如キ是レナリ此ノ語調ハ臆
想ニ抵抗セズシテ其事物ヲ公平ニ考察スルヲ

得ベシヘルガキニアス佛國有名學士嘗テ一切ノ行
為ハ利害ヲ以テ其誘原トスルノ意ヲ述タルニ
衆人皆少間其意ヲ解スルヲ須弁ズシテ直チニ
之レニ抗言シ叫喚シテ止ガリキ其故何ゾヤ利
害ト云フ辭ハ世間ノ見解ニ於テ純然タル愛情
ト仁惠トヲ全ク遮斷スト見ユル所ノ嫌ハシキ
意ヲ有スレバナリ
政治ノ論題ニ於テ唯此感發ノ語ニ基セル論理
其多キ幾許ヅヤ某法律ハ君制ノ主義ニ適シ某
法律ハ民制ノ主義ニ適スト言フヲ以テ世人ハ

其法ニ理ヲ與ヘタリト謂ヘリ然レモ此ノ事ハ
毫モ意義ヲ爲サズ何ゾヤ此語ハ賞賛ノ意ヲ帶
有スト思考スル甲人アラシメバ又其反對ノ意
ヲ以テ之レニ附帶スル乙人アルベシ此甲乙ノ
二人爭論ヲ起サバ其困倦ニ因テ終ルニアラザ
レハ決シテ收局ニ至ラザラントス真確ノ研究
ヲ爲サントセバ之ヲ始ムルニ先チテ此感發ノ
語ヲ棄テ其法律効果ノ幸福凶害ヲ計畫セザル
可ラズ
ブラツクストーンハ政府ノ三體ヲ兼有セル英

國ノ憲法ヲ贊嘆シ遂ニ結論シテ曰ク其君制、貴
族制、民制ノ良性質ヲ兼有セザル可ラザレバナ
リト噫彼レ何ゾ思ハザル其前言ヲ變更セズシ
テ全ク之レニ反對セル同一ノ正當結論ヲ爲ス
ヲ得ルヲ即チ英國ノ憲法ハ民制、貴族制、君制
ノ特殊ノ誤謬ヲ兼有セザル可ラザレバナリト
獨立ト云フ辭ハ品格ト徳義トノ餘意ヲ有セリ
從屬ト云フ辭ハ下劣ト壞敗トノ餘意ヲ有セリ
英國憲法ノ賞賛家が立法院ヲ構造スル三權ノ
獨立ヲ嘆美スルハ之ガ爲メナリ彼等ノ眼中ニ

在テハ此事政學ノ最巧處ナリ政府ノ全體ニ於
テハ好形狀ナリ之ニ反シテ此憲法ノ功德ヲ排
斥スル者ハ常ニ其各部實際互ニ從屬ヲ相為ス
ヲ主張セリ然レモ此賞賚ト排斥トハ共ニ一箇
ノ理ヲモ有セズ
其實際ヲ見ルニ偽冒ノ獨立ハ嘗テ存セザルナ
リ國王及ビ大數ノ貴族ハ平民房ノ選舉ニ關シ
テ直接ノ威カヲ有セリ國王ハ何レノ時ニ於テ
モ該房ヲ解散スルノ權アリ是レ其威力小ニア
ラザルナリ國王ハ貴重ニシテ利益アル職ヲ隨

意ニ廢立シテ直接ノ威カヲ行フ之レニ反シテ
國王ハ兩房ニ從ヒ且ツ特ニ平民房ニ屬ス何ン
トナレバ金貨ナク兵隊無シハ〔此兩者ハ全ク人
民代議士ノ管ス可キ重要ノ事ナリ〕國王其身ヲ
保有スル能ハザレバナリ而シテ國王ハ貴族ヲ
新立シテ其數ヲ隨意ニ増加シ投票ノ數ヲ變ジ
テ王ノ爲メニセシメ又俗貴族ノ格位ヲ進マン
ト欲スルノ希望ト僧貴族ノ階級ヲ昇ホサシメ
ントスルノ香餌トニヨリ國王其重大ノ威カヲ
奮ヘリ何ノ口實カ能ク貴族房ヲ獨立ト云フヲ

得シヤ

謫詐ノ語ヲ基本トシテ論理ヲ爲サズ唯其効果
ヲ考察セヨ議院ノ從屬ハ三權ノ協同ヲ生ズル
相互ノ從屬ナリ定則ヲ遵奉セシム可キ相互ノ
從屬ナリ確然秩序アルノ運行ヲ三權ニ與フル
ノ從屬ナリ相互ノ敬重注思禮讓節度アルハ實
ニ之レニ由レリ若シ三權ヲシテ全ク獨立セシ
メバ其相衝擊スルヲ曾テ絶ルノ日ナク往々腕
力ニ訴フルヲ要スルヲ有テ其効果ハ壞亂ノ景
狀ニ至ラントス

論理ノ此謬妄ハ言辭ノ誤用ニ因テ起レル者ニ
レテ今又尤ノ二例ヲ舉ガル可ラス
國民代理ノ趣意ニ就キ此辭ノ自然ノ効果ト見
做ス可キ意義ヲ索メテ其說ヲ立ント欲スル時
ハ遂ニ一般撰舉ノ制ヲ立テザル可ラザルノ結
論ニ至ルベク又國民ノ代理ヲシテ代理ト認ム
可キノ價ヲ有セシメン爲メニ成ル可キ丈ケ屢
々之ヲ改撰ス可シトノ結論ヲ得シ
實利主義ニ據テ此疑問ヲ決セハ其言辭ニ關シ
テ理ヲ論ズルハ無用ナリ唯其効果ノ上ニ屬目

セザル可ラズ立法會ノ撰舉ニ於テ其撰舉權ハ
之ヲ執行スルニ堪ヘタリト國民ノ信用スル者
ニ限ル可ク其他ハ之ヲ附與ス可ラズ何ントナ
レバ國民ノ信用ヲ有セザル人ノ撰舉シタル會
集ハ國民ノ信用ヲ薄カラレムレバナリ
政治ノ誠心ヤ十分ノ智識ヲ有ストナス能ハザ
ル者ハ之ヲ認メテ撰舉人ニ適當スト爲ス能ハ
ズ吾人ハ賄賂ニ瞞セラレントスル人、定居無キ
人、法律ノ禁ズル所ノ罪科ヲ以テ裁判廳ヨリ宣
告ヲ受タル人ヲ認メテ政治ノ誠心アリトナス

能ハズ又婦人其家事ノ爲メニ公務ノ施置ニ關
セザル、兒子少年及ビ貧困ノ爲メ、昔初學ノ教科
ヲ受ザリシ者等ヲ認メテ幾分ノ智識アリトナ
ス能ハズ
夫ノ撰舉人ニ必要ナル分限ヲ定ム可キハ是等
及ビ此類ノ主義ニ隨フ者ナリ又立法會員ノ年
期ヲ定ムルニ至テモ夫ノ事實ヲ離レ辭義ヲ基
本トセル議論ニ意ヲ留メズシテ屢々改撰ヲ爲
スノ利ト害トヲ見テ其論理ト爲ス可キモ亦同
ジ今最後ノ例トシテ與ントスル者ハ之ヲ條約

説ニ取ルベシ是レ政論ノ荒誕ニシテ其論者が
此名稱按條約ヲ指ス附與セシ者ヲ指シテ云爾スル
ナリ

ロツクルソーガ此偽冒條約ノ論理ヲ立ルニ
當リ社會ノ條約政治ノ條約ハ某々ノ條款ヲ有
スト明言スルニ當リ之ヨリ生ズルト假想不可
キ公同幸福ヲ除キ他事ニ因テ其條約ヲ證スル
ヲ得ル乎此條約ハ嘗テ製シテ書契トスル者ナ
レト雖正姑ラク認メテ現存スル者ト爲ス時其
効力ハ何ニ屬スル乎是レ實利ニ屬セザル乎何

ノ故ニ吾人ハ約束ヲ履行スベキ乎約束ノ信用
ハ社會ノ基礎ナルガ故ナリ各人信實ニ其約束
ヲ踐履ス可キハ全社會利益ノ爲メナリ約束若
シ必行ス可キ義務ノカヲ有セズンバ人間ニ安
固ナク通商ナク信用無ル可シ吾人ハ林莽中ニ
逃歸セザルヲ得ザルベシ政治ノ條約ニ至テモ
亦之レト同一ナリ其レヲシテ羈束セシムル者
ト爲スハ其實利ニアリ此約束若シ有害ノ者ト
ナランニハ其効力ヲ失フベシ假設國王ヲシテ
其臣民ヲ不幸ナラシム可キ誓約ヲ爲ストセバ

此約束ハ効カヲ有スル乎假設如何ノ事故アリ
トモ人民ハ其君ニ從フ可シト盟ハ、ネ口カリ
グラノ共ニ虐馬ノ如キ虐主ニ逢フトモ此盟約ヲ
破ランヨリ寧口麤殺セラル、ニ委ス可キ乎假
設其條約ヨリシテ全社會ノ通害トナルノ効果
ヲ生ストモ此條約ヲ保守ス可キ十分ノ道理ア
ル乎此ノ如ク觀察シ來レバ條約ハ其基礎ニ於
テ唯實利ノ問題アルガ爲メニ其効カアルノ説
ヲ駁スル能ハズ但其稍々真相ヲ覆ヒ形狀ヲ變
ズルガ故ニ謬妄ノ解釋ヲ容レ易キナリ

第十

想像ノ法

ハ理ニアラス

自然ノ法ト云ヒ自然ノ權ト云フハ荒誕比語ノ
二類ナリ而シテ之レニ對シテ特殊ノ考察ヲ下
スベキ程ノ至大ノ地位ヲ立法書中ニ占ム夫レ
法ト云フ辭ハ其本原ノ意通常ノ義ハ立法者ノ
志向即チ命令ヲ云フ者ナリ自然ノ法ト云ヘル
句ハ自然ヲ一生物此按造物主ノ字面ト做レテ描
キ出セル形容語調ニシテ自然ニ某々ノ氣象ア
リトシ此氣象ヲ形容シテ法ト稱セリ此意義ニ
於テ人類一般ノ意好ノ人間社會ヲ離レ單行レテ

存スルガ如クニシテ政法民法ノ設立ハ之レヨ
 リ流出セザル可ラザル者ヲ自然ノ法ト稱セリ
 是レ此句（按自然ノ正解ナリ）
 然リト雖氏是レハ世間ノ見解ニアラズ世ノ論
 者ハ此句ヲ直解シテ恰モ自然法ノ成典アリレ
 如キ者ヲ做レ自然法ニ上訴レ自然法ヲ引用レ
 立法者ノ法令ト逐章對抗ス而レテ其自然法ナ
 ル者ハ自己ノ私造ニ出ルヲ知ラズ又此偽冒法
 典ノ本文ニ於テハ論者ノ中ニモ異論錯出レテ
 互ニ矛盾スルヲ知ラズ其證徴無レテ私意證明

レタル者ナルヲ知ラズ此論理法ハ其論者ノ多
 キニ隨テ分レテ萬殊ト爲リテ嘗テ一定セザル
 トヲ知ラズ唯想像ノ法ニ關レテ縱マ、ニ私説
 ヲ出シ爭論シテ己ムノ期ナキガ故ニ此手段ヲ
 以テ理ヲ論スル時ハ各人一々其原頭ヨリ新タ
 ニ論ジ起サバルヲ得ザルトヲ知ラザルナリ
 夫レ人ニ自然ナル者ハ所謂意好ニシテ快樂痛
 苦ノ感情即チ是レナリ然リト雖氏此感情此志
 向ヲ稱レテ法ト云フハ偽妄危險ノ意思ヲ生ジ
 言語ヲシテ自家撞著セシムルナリ何ントナレ

ハ法律ノ設立ヲ要スル所以ハ正ニ此意好ヲ節
制セン爲メナリ此レ是意好ヲ認メテ法ト爲ス
可ラス却テ法ノ之ヲ制御セザル可ラザル者ナ
リ法律ノ最モ嚴ナルヲ要スル所ハ此ノ自然ノ
意好ノ最モ旺ンナル者ニ對スルニアリ若シ自
然法ト云フ者アリテ天下ノ人類ヲ指揮シテ公
同ノ幸福ニ嚮ハレメバ法律ハ無用ニ屬スベシ
恰モ榭樹ヲ支ントレテ葛蘿ヲ假リ日光ヲ増シ
ガ爲メニ松明ヲ焚クガ如クナラン按榭樹日光
ヲ以テ自然
ムルニ譬フ言フハ自然法若シ公同幸福ニ嚮ハレ
ムルニ譬フ言フハ自然法若シ公同幸福ニ嚮ハレ

光ノ葛蘿松明ヲ要セ
ザルガ如クナラン
ブラツクストイン父母其兒子ヲ養育スルノ義
務ヲ論ジテ曰ク是ノ義務ハ自然法ノ主義ナリ
造化科スル所ノ義務ナリ兒子ヲ現世ニ生ズル
父母當然ノ行事ニ因テ定マルノ義務ナリ又曰
クモンテスキユ一云フ父其子ヲ育スルノ自然
義務有テ婚姻ノ制因テ以テ起ル是ノ制ハ是義
務ヲ果ス可キ人ヲ指示スル者ナリト是言甚ダ
理アリ原注第一篇
卷十六
父母其子ヲ育セント欲スルノ意好アリト云ヒ

父母其子ヲ育スルノ義務アリト云ハンニ此兩語ハ其意義相反セリ
 其第一語ハ第二語ノ意ナク第二語ハ第一語ノ意ナレ夫レ父母ニ科スルニ其子ヲ生育スルノ義務ヲ以テス其至強ノ理アルハ疑ヲ容レズアラツクスストーンモンテスキューハ何ヲ以テ此等ノ理ヲ說出サバリシ乎何ノ故ニ吾人ヲ率キテ其自然法ト私稱スル者ニ矚目セシメシ乎人間立法者ノ制定スル第二法（按）自然法ヲ言フ者人稱セリ自然法ヲ第一ト故シ之レ意ヲ取テ第二法ト

法ト云フ此ハ婚姻ノ支柱ニ依テ存スルヲ得ル自然法ト云フ者ハ抑何物ナル乎若シ自然ノ義務ト云フ者ヲシテ存セシムルトモンテスキューノ言ノ如ンバ是ノ義務ハ啻ニ婚姻ノ基本トナラザルノミナラズ却テ其無用ヲ證スルニ足ルナリ假令全ク無用ナラザラシムルモ亦モンテスキューノ目的ノ爲メニ無用ヲ證スルニ足レリ（按）自然法至強ノ勢カアラバ更ニ婚姻セ夫レ婚姻ノ目的ノ一ハ正ニ自然愛情ノ缺ヲ補フニアリ夫レ父母ノ意好ハ教育ノ勞苦ニ耐

ヘテ常ニ之レニ勝ツニ足ルノ勢力ナシ故ニ此
意好ヲ轉用シテ之ヲ義務ト為ント欲スルナリ
人其身ヲ育スルニ給スルノ意ハ甚ダ熾ンニシ
テ別ニ法律ヲ為テ之ヲ義務トシ科スルヲ要セ
ズ若シ父母其子ヲ育スルニ給スルノ意ヲレテ
其身ヲ養フガ如ク強カラシメバ立法者ハ決シ
テ之ヲ義務ニ轉用スルノ思考ヲ有セザリシナ
ラン
棄兒ノ陋習ハ古昔希臘全國ニ徧クシテ今尚ホ
支那ニ行ハルハ希臘ヨリ甚シ此陋習ヲ除ン

が爲ヌニ夫ノ謬誤明瞭ナル偽冒自然法ノ外別
ニ論理ヲ求ムルモ豈無用ナラン乎
權ト云フ辭ハ法ト云フ辭ノ如ク兩義ヲ有セリ
其甲ヲ固有ノ義トシ其乙ヲ比喩ノ義トス其固
有ノ義ニ於テ權ト稱スル者ハ固有ノ義ニ於テ
法ト稱スル者ヨリ生ズ即チ眞箇ノ法ハ眞箇ノ
權ヲ生ズルナリ自然ノ權ハ自然ノ法ヨリ生ズ
是其權ト云ヘルハ一ノ比喩ニシテ其原ヲ他ノ
比喩ニ取ル者ナリ
夫レ人類ノ自然ニ有スル所ノ者ハ手段即チ能

力是レナリ然レド此ノ手段此ノ能力ヲ稱シテ
自然ノ權トスルハ是レ其用語ヲシテ撞著セシ
ムルナリ何ントナレバ權ハ手段能力ノ施行ヲ
確保セン爲メニ立ル者ナレバナリ權ハ保者ナ
リ能力ハ被保者ナリ斯ノ如ク判然夔別ノ事ヲ
混亂シ同辭ヲ以テ之ニ命ゼバ吾人如何ソ能ク
相互ノ晤話ヲ解センヤ器物ヲ製スルノ匠人ニ
附スルニ其器物ト同一ノ名ヲ以テセバ巧藝ノ
標目ハ何クニカ在ルヤ
眞箇ノ權ヲ語ルハ常ニ之ヲ法律上ノ意義ニ使

用シ自然ノ權ヲ語ルハ往々法律ニ反スルノ意
義ニ使用ス例ヘバ法ハ自然ノ權ニ反シテ捷ヲ
獲ル能ハズト云ニ是レ權ト云フ辭ヲ以テ法
ニ超ルノ意ニ使用セリ何ントナレバ此用語法
ニ於テハ法ヲ攻撃シ之ヲ覆倒シ之ヲ廢棄スル
ノ權ヲ認レバナリ斯ク法律ニ反スルノ意義ニ
於テ權ト云フ辭ハ理ノ大敵ナリ政府ヲ覆滅ス
ベキ最モ恐ルベキ者ナリ
自然ノ權ヲ以テ武器トナシ各人私意ノ見解ヲ
下シ己レノ欲スル如ク之ヲ驅使スルノ狂信者

ハ毫モ論理ヲ有セズ此權ハ之ヲ服從シ之ヲ減
削スル能ハズ其理梗塞シテ其言含糊ナリ夫ノ
狂信者ハ之ヲ認メ不易ノ理トナシテ崇信シ之
ニ違フヲ以テ罪科トセリ此狂信者ハ效果ニ就
テ法律ヲ推考セズ善惡ニ因テ之ヲ判決セズ唯
僞冒ノ自然權ニ就テ法律ヲ考察セリ之レヲ詳
言スレバ自己ノ空想ヲ以テ實驗ノ論理ニ換用
セリ
是ノ誤謬ハ決シテ無害ノ者ニアラズ其事想考
ニ止ラズシテ遂ニ實行ニ現出ス曰ク自然ニ協

同セルノ法ハ之ヲ奉ゼザル可ラズ他ノ法ハ虛
無ナリ之レニ遵フ可ラズ當ニ之ヲ拒ムベシ自
然ノ權他ノ攻撃ヲ受ルニ於テハ良民直チニ奮
起シテ之ヲ扞守セザル可ラズ此等ノ權ハ別ニ
證徴ヲ要セズシテ原來明白ナル者ナレバ唯之
ヲ説明シテ足レリ既ニ明白ナル者ナリ如何ゾ
之ヲ證スルヲ得ン之ヲ疑フハ感覺無キナリ智
識足ラザルナリト
然リト雖此ノ如ク説キ出サバ世人或ハ言シ
トス此ノ如キ暴論ヲ掲ゲテ之ヲ夫ノ天意ニ通

スル自然説政事學士ノ言トスルハ無實ノ誣妄
ナリト今此ノ咎責ヲ避ケンガ爲メニ自然説ノ
此点ヲ直説シタル文章ヲアラツクストインノ
書中ヨリ引證セントス其之ヲ諸家ノ説ヨリ取
ラズシテ特ニグラツクストインニ引證スルハ
其政權ヲ崇尚スル甚ク厚キ人タルヲ以テナリ
按政權ヲ崇尚スル學士ニシテ尚ホ而シテ其偽
此ノ如シ況ンヤ其然ラザル者ヲヤハシテ其偽
冒ナル自然法ト天啓法ニ啓告セラハ神法ノ人
經典ヲ指ストヲ論ズルノ言ニ曰人爲ノ法ハ此
等ノ法ニ矛盾セシム可ラズ若シ人法ノ命ズル

所自然法若クハ神法ノ禁ズル者タラバ吾人ハ
此人法ヲ干犯セザル可ラズト原注英法註釋
一卷四十三葉
是レ豈一切ノ政府ニ反對シテ各狂信者ノ爲メ
ニ武器ヲ備フルニアラズヤ自然法神法ニ關シ
テ世人ノ見解萬殊ナルガ故ニ誰カ人爲ノ各法
ニ抗スル義務アリト論理ヲ立ル能ハザル者ア
ラシヤ國法若シ自然法神法ヲ解スル各人ノ私
意ニ適セザル時ハ此法律ニ抗ス可キ義務アリ
トノ本心ヲ其人ニ有セシメバ何レノ國カ能ク
一日保存スルヲ得シヤ其自然法説明者ノ間

ト神法説明者ノ間トニ演スル殘殺ノ慘劇ハ果
シテ如何ゾヤ
又曰ク幸福ヲ追求スルハ自然ノ權ナリト夫レ
幸福ヲ追求スルハ明カニ自然ノ意好ナリ然リ
ト雖氏焉ゾ之ヲ稱シテ權トスルヲ得シ乎其權
ト云フ可キト否トハ要スルニ唯之ヲ追求スル
ノ道如何ニ屬セリ暗殺者ハ暗殺ヲ行フニ因テ
其幸福ヲ追求シ假令真ノ幸福ニアラザルモ亦
其幸福ト思考スル者ヲ追求ス彼レ豈之ヲ爲ス
ノ權ヲ有センヤ若シ之ヲ有セズンバ何ゾ之ヲ

有スト明言スルヤ此ノ如キ明言ハ如何ゾ又ノ
幸福才識ヲ長ズルノ趣向アラザルヤ
チユルゴト佛國有名ハ俊傑ノ士トリ然レ氏考
ノ政事家察ヲ下サズレテ一般ノ論說ヲ採用シタリキ其
所謂侵ス可ラザル自然權トハ專權ナリ即チ固
執套語ナリ而シテチユルゴトハ其此ノ如キ者
タルヲ辨ゼズレテ之ヲ執行セント希ヒタリ彼
レ一成語ニ會シ之ヲ疑フノ理ヲ見ザル時或ハ
明カニ真理ト判シタル時更ニ進一層ノ考察ヲ
爲サズ之ヲ見テ自然權ニ歸シ恒久ノ正道ニ歸

レ爾後之ヲ夫ノ考論ヲ容ル可ラザル聖条ノ如ク使用シタリ
 實利ノ語タル往々之ヲ誤用シ狹隘ノ意義ヲ以テ之ヲ解シ罪行ニ假スニ此名稱ヲ以シタリ之レガ爲メニ實利ハ恒久ノ正道ニ反スル如キ外狀ヲ現ゼリ是ヲ以テ其格位ヲ落シテ貪婪ノ名稱ヲ得タリ故ニ其格位ヲ回復シテ眞箇ノ基礎ヲ有スルノ論理ヲ再興スルヲカメザル可ラズ今自然權ノ學黨ニ和議ヲ結ブ可キ條款ヲ開陳セン自然若シ某々ノ法ヲ制ストセバ厚ク之ヲ

信ジテ引用スルノ人及ビ自ラ謙シテ自然法ノ説明者ト稱スルノ人ハ自然其法ヲ制スルニ當リ其法律ハ或ル道理ヲ有シタリト想ハザル可ラズ此形影無キ立法者按形影ナキ立法者トハ自然ヲ形容スル辭ノ志向ヲ以テ其法權トナシ之ヲ吾人ニ慫慂スルトヲ止メ之レニ代フルニ直チニ其法ノ道理ヲ吾人ニ示スノ手段ヲ以テセバ更ニ的切簡短人ヲシテ感服セシムルニ足ルニアラズヤ
 此ニ議論ノ謬妄手段就中其特ニ議會ニ行ハル、者ヲ列舉ス可キ地ニ進メリ其類ハ曰ク人物

ノ貶評曰ク惡意ノ誣言曰抑揚ノ議論曰ク遷延
不決ノ談是レナリ今略シテ之レニ及バズ然レ
ト上文既ニ歷陳セシ者ヲ見バ如何ナル者カ實
利ノ主義ニ於テ論理ニ適シ如何ナル者カ其論
理ニ適セザルカヲ知ルニ足ン
夫レ論理ノ一切ノ謬妄手段ハ常ニ兩箇謬妄主
義ノ一ニ歸スルヲ得ン按禁欲ノ主義及ビ專
斷愛憎ノ主義ヲ云此
大本ノ區別ハ多言ノ煩ヲ省キ意義ヲ明瞭ナラ
シムルニ須要ナル者ナリ某々ノ議論ヲ取テ謬
妄主義ノ孰レカニ歸スルハ恰モ火中ニ投セン

ガ爲メニ荊茅ヲ束ヌルガ如シ
此ニ一般ノ考察ヲ概舉シテ結論トス夫レ誤謬
ノ言語ハ常ニ曖昧ニシテ不定ナル者ナリ喋々
ノ多言ハ兒戲偽妄ノ意義ヲ裝飾スルナリ其套
語ヲ屢々變更スルニ隨テ彌々讀者ヲ眩シ易シ
真理ノ套語ハ齊整簡短ナル者ナリ同一ノ意義
ハ常ニ同一ノ套語ヲ用テ之ヲ説明ス各事皆快
樂痛苦ニ歸ス某々ノ行事ハ某々ノ苦樂ヲ生ズ
ト云フ切實ノ意義ヲ矯揉ス可キ言語ハ悉ク之
ヲ却ク請フ吾言ヲ妄信スル勿レ唯經驗ヲ信セ

立法論綱卷四

ヨ。特ニ自家ノ經驗ヲ信ゼヨ。二箇反對ノ行為アリ。ラ。ン。ニ。其孰レヲ撰取スルヲ知ラント欲スル乎。請。フ。其。行。為。効。果。ノ。幸。福。凶。害。ヲ。計。較。シ。幸。福。ノ。多。分。ヲ。與。フ。可。キ。者。ヲ。撰。べ。

立法論綱卷四畢

御用書物師

律書房

須原量坪

東京日本橋區
吳服町六番地

賣 弘 書 肆

大坂

前川善兵衛

同

岡島真七

東京

北畠茂兵衛

同

稻田佐兵衛

同

山中市兵衛

同

丸屋善七

